

日本公民館学会 学会設立20周年記念シンポジウム

「公民館研究50年」と公民館学会20年の 到達と課題

2023年 12月3日(日)

参加費
無料

基調報告

「公民館研究50年」と公民館学会20年の 到達と課題

上野 景三

(西九州大学／元日本公民館学会会長)

シンポジウム

上田幸夫 (日本体育大学名誉教授)

佐藤一子 (東京大学名誉教授)

安藤秀寿 (塩尻市中央公民館)

上野景三 (コーディネーター)

13:00 – 16:00

本シンポジウムについて

日本公民館学会は、公民館が、すべての人々の生涯にわたる学習権を保障する中心的な教育機関として発展することを期待し、その研究およびその他の活動を推進するため、2003年に設立されました。

日本全国の社会教育行政職員・公民館職員や研究者らの会員によって構成される学会です。

学会設立20周年を迎えるにあたり、今後の公民館の振興、発展に寄与すべく、これまでの公民館研究を振り返りつつ、いっそうの研究、実践を充実・強化を図るための記念事業の一環として企画いたしました。

会場

塩尻市中央公民館

(塩尻市総合文化センター)

長野県塩尻市大門七番町4-3

同時開催：2023年度研究大会

12月2日(土)、3日(日)は、同会場にて研究大会を実施しております。プログラムは学会HPに掲載しております。ご関心のある方は併せてご参加ください。

参加申込

参加ご希望の方は、11月26日(日)までに以下のフォームより申込みをお願いいたします。

なお、Zoomでのオンライン配信も行います。オンラインでの参加申込みの方には、当日までに参加URLおよび資料をお送りいたします。ただし、当日、回線などの都合で配信に不具合が生じる場合もございます。あらかじめご了承ください。

どなたでもご参加いただけます。

日本公民館学会

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学人間系(教育学域)生涯学習学研究室気付
E-mail: kominkangakkai@yahoo.co.jp
URL: <https://www.kominkangakkai.net/>



シンポジウム企画趣旨

学会創設後の20年は、公民館の設置数が減少、指定管理者制度の導入、さらには地域づくりへの期待の高まりによって、関連行政分野との連携・協働がすすむなかで、あらためて公民館の固有の性格と役割が大きく問われてきた時代でした。

こうしたなかで、これまでの公民館のたしかな理論と展望をどう描くかの課題を、この20年の動向を踏まえつつ探る機会としていきたいと考えています。

基調報告講師・コーディネーター



上野景三 氏

西九州大学副学長/教授。名古屋大学大学院博士課程修了。佐賀大学大学院教授を経て、現職。日本公民館学会会長、日本社会教育学会会長を歴任。九州各県の公民館支援や北部九州公民館ネットワークの組織化にあたっている。著書:「公民館をデザインするということ」(日本公民館学会編『公民館のデザイン』エイデル研究所、2010)、「地域・公民館における社会教育と社会福祉の連携・協働」(松田武雄編著『社会教育と福祉と地域づくりをつなぐ -日本・アジア欧米の社会教育職員と地域リーダー-』大学教育出版、2019)など。

シンポジスト



上田幸夫 氏

日本体育大学名誉教授。東京教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。東洋大学助手を経て、日本体育大学教授を務める。前日本公民館学会会長。元社会教育推進全国協議会委員長、元月刊社会教育編集長。初期公民館を軸とした歴史研究、公民館職員研究にかかわってきた。著書:『公民館を創る』(国土社、2017)『現代の貧困と社会教育』(共編著、国土社、2009年)など。



佐藤一子 氏

東京大学名誉教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士(教育学)。埼玉大学、東京大学大学院、法政大学教授を務める。元日本社会教育学会会長。さいたま市の九条俳句訴訟ではさいたま地裁で専門家として意見陳述を行った。著書:『九条俳句訴訟と公民館の自由』(共編著、エイデル研究所、2018年)、『「学びの公共空間」としての公民館』(岩波書店、2018年)など。



安藤寿秀 氏

2011年4月に塩尻市役所に入庁。2014年4月人事異動により吉田公民館主事に着任。公民館や地域についてわからないことばかりだったが、地域住民から地域を学び、様々な取組みに挑戦。2018年3月には吉田公民館が文科省主催優良公民館表彰を受賞する。同年4月より塩尻市中央公民館主事に着任。出来るだけ地域に出てたくさんの住民と話すこと、また多様な団体や住民との連携をすることで公民館活動の可能性を広げられるよう努めている。